

新年に思う

学園花の村代表

池守 幸一



戦争のできる国を目指す安倍さんにはちよつと不安があるけど、アベノミクスで景気を浮揚させると聞かされれば、つい安倍さんに期待しちゃう。今の日本はそんなところでしょうか。

本当に景気は浮揚でき、経済は成長させられるのか、私はノーだと思えます。これだけ物的豊かさを実現した日本社会は、もはや買いたい物が無いほどの域に達していて、だから経済の拡大はもうない。させる必要はないと思う。なんとしても成

長させるといふ安倍さんは大きな錯誤をしているのではないか。

今求められているのは成長路線ではなく、公平な分配です。民主主義の問題です。難しいけど人口減少の低成長の中で安定した社会を作り出すと言うことです。

脱成長、低成長の社会では農業がそれなりの役割を果たすようになると思います。はつきりしているのは安定した社会とは誰もが健康な社会だと言うこと。確かな食べ物を日本型食事で摂る。生活習慣、なかなづくしっかりした食習慣が社会の基本に据えられなければ成りません。食料生産を管理する農政の歯車を根本的に組み立て直さなければ成りません。脱成長の社会の到来に備え、農業はどうあったらいいのか、どう寄与していけるのか、その役割は何か、広く深い探求が求められて居ると思います。

新年号によせて

光陽の里楽農会

代表 野田芳宏



光陽の里楽農会が学園はなの村と分化して数年が経ちました。光陽の里が学園はなの村の実験農地として立ち上がるために、南風園の宮城さん、井上さん、津野先生等の花の村の人たちや地主さん達をまとめられた故加藤隆三さんや地元の人たちの並々ならぬ苦勞に改めて感謝する次第です。

学園花の村がここ光陽の里をを耕作するようになって一六年が経ちました。宮城さんが

不耕作農地が増えることを憂い始められた思いが今こうして光陽の里楽農会として、あるいは倉馬の里として続いていること、そして彼がこの運動を始められたのが8歳に成られて居ることを考えると頭が下がる思いです。

今その思いに逆らうように水田が荒れ、不耕作農地が目立つようになりました。学園花の村の基本理念である不耕作農地をなくすこと、そのために耕作面積を拡大する今の政治のあり方とは別に津野先生が仰有っているように「小さい農業」を実行する花の村の事業のあり方をもう一度見直すことが必要となつていふと思えます。素人が農に携わる大切さが必要なときだと思つた。

学園花の村の大切さがこれから見直される時代が来ていると思えます。